

2020. 8. 16 第三主日あかし礼拝

使徒 3:1-10 「イエスの名によって歩く」

### 聖書

- 1 ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。
- 2 すると、生まれつき足の不自由な人が運ばれて来た。この人は、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しの門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた。
- 3 彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとすることを見て、施しを求めた。
- 4 ペテロは、ヨハネとともにその人を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。
- 5 彼は何かもらえると期待して、二人に目を注いだ。
- 6 すると、ペテロは言った。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」
- 7 そして彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、
- 8 躍り上がって立ち、歩き出した。そして、歩いたり飛び跳ねたりしながら、神を賛美しつつ二人と一緒に宮に入って行った。
- 9 人々はみな、彼が歩きながら神を賛美しているのを見た。
- 10 そしてそれが、宮の美しの門のところで施しを求めて座っていた人だと分かると、彼の身に起こったことに、ものも言えないほど驚いた。

### はじめに

聖書にはたくさんの奇蹟が出て来ます。旧約聖書にも新約聖書にも奇蹟が記されていて、初めて聖書に触れる方の多くは、奇蹟が信仰の妨げになるかもしれません。「そんなことが本当にあるのだろうか、とても信じられない」と疑念を抱くのは当然です。一般的に人は日常や常識を超えたことについて受け入れることが困難であり、奇蹟はその筆頭に上げられるからです。ある方が「キリスト教信仰を持ちたいけど、奇蹟は信じられない。それでもいい

ですか」と言われたことがあります。奇跡を信じるのが信仰を持つ条件ではありませんのでその心配はいらないのですが、多くの人が奇跡に躓くことも分からないわけではありません。今日は使徒たちが行った奇跡の一つを取り上げますが、そこにはある目的があつて奇跡が行われたのです。その目的とは、「イエスの名」に込められた神の力を証するためでした。

## 1. 奇蹟とは

使徒3章に記された奇跡は「美しの門」という名で親しまれています。ペテロとヨハネはユダヤ教の夕べの祈りである「午後3時の祈り」のために宮に上って行きましたら、宮の「美しの門」という場所で生まれつき足の不自由な人に出会います。「この人は、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しの門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた。」(2節)とありますから、参拝者から施しを求めて生きることが日常だったのです。そんな中でペテロとヨハネに出会いました。

いつも通り「彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとするのを見て、施しを求めた。」(3節)のです。この人にとっては日常の一コマですがペテロとヨハネによってそれが非日常に一変します。私たちの毎日の生活にもある日突然奇跡が起こって、現状を変えてもらえたらいいのと思う人がいるかもしれませんが、すでに聖書を通してイエスさまのことが伝えられている私たちには、今日ここに記されているような形での奇跡が行われることはないでしょう。なぜなら、新約における奇跡はイエスさまが神の子であることを示すために行われたものだからです。奇跡の出来事に目を奪われてしまうと、そんなバカなことがあるわけがないでしょうと退けてしまいやすいですが、奇跡の目的、すなわち、イエスさまとはどのような方なのかを示すために行われたものであることが分かると、奇跡に対する理解が深まるのではないのでしょうか。奇跡は出来事に人々の関心を向けさせるためではなく、奇跡を行われる方に目を向けさせるものだからです。その視点から「美しの門」での出来事を見ると、イエスさまの御名の偉大さに導かれていくのです。

## 2. ナザレのイエス

まず、実際どんなことが行われたのか詳細を見てみましょう。この人は「美しの門」に入ってくるペテロとヨハネを見て、いつも通り施しを求めました。しかし、返って来たのはお金ではなく、この人をじっと見つめるペテロとヨハネの視線でした。そしてペテロとヨハネは『私たちを見なさい』（4節）と言ったのです。ペテロとヨハネの視線に圧倒され、彼はいつも以上に期待したのではないのでしょうか。何かもらえると思って二人に目を注ぐと、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」（6節）という全く予想だにできなかったことばが返って来たのです。それだけではありません。ペテロとヨハネが彼の右手を取って立ち上がらせると、足とくるぶしが強くなり「踊り上がって、歩き出した」（8節）のです。そして神を賛美しペテロとヨハネと一緒に宮の中に入って行きました。

時間にしたら一瞬の出来事だったかもしれませんが、ちょっとしたドラマができるほど劇的なことが起こったわけです。生まれつき足の不自由な人の生涯が劇的に変わったのは、金銀ではなく「ナザレのイエス・キリストの名」（6節）にありました。また、その名を用いて神の御力を示したペテロとヨハネの信仰によったのです。2人の使徒たちの信仰を通して証された「ナザレのイエス・キリストの名」とはどのような名なのでしょう。

この名にこそ、奇跡の鍵が秘められているのです。ペテロとヨハネが用いた名には2つの意味があります。一つは「ナザレのイエス」であり、もう一つは「イエス・キリストの名」です。「ナザレのイエス」とはナザレ人イエスと同じ意味で、イエスさまが活動されたナザレ地方を指していて、数々の奇跡やしるしをもって実在した人物であることを「ナザレのイエス」ということばで表しました。奇跡は信じ難いことなので、いきおいその出来事すべてが架空のものとして退けられてしまう可能性があります。そうではなく事実、

ナザレで活動されたイエス・キリストがおられたという史実性を明確にする意味で「ナザレのイエス」と称したのです。この事実は今も変わりません。確かにイエス・キリストは実在した人物です。このことを疑う者はいないでしょう。

### 3. よみがえりの力

もう一つの「イエス・キリストの名」に込められた思いは何でしょうか。そこにはキリストの十字架と復活が意味されており、復活の後昇天され神の右に着座されたイエスさまの偉大な存在が意図されているのです。つまりイエスさまの復活の力、よみがえりの力が「イエス・キリストの名」の持つ意味であり、この人の癒しは復活の力によってなされたことが証されたのです。事実、6～8節に出てきます「立ち上がり」「立たせた」「立ち」ということばは、死んだ人間がよみがえるとか、横になったものを起こすという意味の復活を意図することばが使われています。足が不自由で横になっていたこの人は、名実ともにイエスさまの復活の力によって立ち上がり、歩き出しました。

イエスさまの復活の力がこの人の肉体に大きな変化をもたらしたのです。現代でも癒しの奇跡は存在しますが、ここで言うような癒しの奇跡がすべての人に起こるとは限りません。その背後には神さまの深いご計画があるわけですが、病気の癒しや災いからの解放という奇跡ではなくとも、私たちの生き方が変わるという奇跡はすべての人に起こり得ます。この人は、以前は人から施しをもらう生き方だったのですが、今は神を賛美する生き方になりました。こうした人生の転換は誰にでも起こり、その鍵が復活のイエスさまの御名にあるのです。

冒頭に「キリスト教信仰を持ちたいけど、奇跡は信じられない。それでもいいですか」と尋ねて来られた人の話をしました。その後、この方はキリスト教信仰を持たれ、洗礼を受けてクリスチャンとして歩んでおられます。今でも、「奇跡はね」と臍に落ちないものはあるようですが、それでも信仰を持

たれたのは、自分の生き方を改めたいと願われ、自らの罪深さを十字架のイエスさまによって示されたからです。イエスさまは私の罪を赦し救ってくださり、日々自分を支えてくれているという経験をされたことにより、イエスさまの復活の力が自分に臨んでいることを否定できなくなってしまったのです。その方は、イエスさまが私の人生を変えてくださったという事実をもって、「それこそが奇跡中の奇跡です」と今は証をされます。イエスさまはご自分の復活の力によって、信じる者を新しく生まれ変わらせることのできるお方です。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(Ⅱコリント 5:17) という奇跡が一人の一人の上になされますようにお祈りします。

### まとめ

「ナザレのイエス・キリストの名」によって歩くということは、今この場においても起こり得ることです。イエスさまを私の救い主として信じる信仰に立って歩み出すとき、その歩みは以前の歩みとは異なります。なぜなら以前は神を知らない生き方をしていたわけですが、信じて踏み出すなら、それ以降の歩みは神とともに歩む人生となるからです。私たちの人生に神が存在するか否かは大きな違いです。すべての人がイエスさまの救いを受け入れ、神とともに生きる人生へと方向転換されることを願っています。その鍵はイエス・キリストの復活の力にあります。今も生きて働いておられる復活のイエスさまを信仰の目をもって仰ぎ見ましょう。愛するお一人お一人の生き方に主の祝福が注がれますようにお祈りします。